



◆◆◆◆◆ 国際通貨研究所メールマガジン（第26号 2014/5/12 発行）

◆◆◆◆ Institute for International Monetary Affairs (IIMA)



<http://www.iima.or.jp/>



※本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。

閲覧には Adobe Reader が必要です。

Adobe Reader のダウンロードはこちらから→ <http://get.adobe.com/jp/reader/>



1. 理事長 行天豊雄のコラム 『何処の紛争が火を噴くか？』

通貨は経済的手段であることは勿論だが、地政学的手段でもありうる。だからこそ、世界のさまざまな動きが通貨の市場価値に影響することになる。昨今の世界情勢を見て感ずるのは、経済面では金融危機からの回復・調…

（株式会社マネーパートナーズへの寄稿）

（全文はこちらから）

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2014/20140512gyoten.pdf>



～iima en フォーラム 2013 年度 ベストコメント賞受賞者寄稿～

2. 文京学院大学、東洋学園大学、拓殖大学非常勤講師

増永真のコラム『最近の国際政治情勢の着眼点：国際政治学の分析視座を用いて』

中韓との関係改善や北朝鮮との国交正常化、TPP 交渉の合意など日本が直面する多くの外交課題を理解するためには、どのような点に着目すればよいのか。国際政治情勢についての世間の議論は、直感、印象、そして、時…

（IIMA メールマガジンへの寄稿）

（全文はこちらから）

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2014/20140512masunaga.pdf>

■購買力平価グラフの更新

<http://www.iima.or.jp/research/ppp/index.html>

(ドル円) (ユーロドル) (ユーロ円) を掲載しています。

■今月の新着レポート

1. 「アルゼンチンの輸入規制などの実態と今後の展望」

外貨の不足に悩むアルゼンチンは2011年以降、様々な輸入規制や海外送金規制を強めている。そのなかでも国際的な批判が集中しているのが事前宣誓供述書(DJAI)制度である。消費財を輸入する際、輸入者は「輸出入計画書」の提出を求められ、収支均衡か収支の改善を示すことでようやく輸入許可を得ることができる。輸入規制等の実態と今後の展開を検討する。

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_23_j.pdf

2. 「Progress of Bond Markets in East Asia」

「東アジア債券市場整備の進捗状況」の英語版

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_20_e.pdf

3. 「メキシコの生産性上昇率はなぜ低いのか? ~求められる小規模企業の底上げ~」

メキシコのGDPは世界14位、人口も1.15億人を数え、ラテンアメリカ世界ではブラジルに次ぐ経済規模を誇り、1人当たりGDPは1万ドルを超える。また、メキシコはNAFTAの一員として北米の重要な製造拠点になっているほか、45ヶ国との間で自由貿易協定を結んでいる。日本からも多く自動車産業が進出し、自動車工業の集積が進んでいる。だが、マクロ的にみれば、実はメキシコの実質GDPの生産性の向上は極めて鈍い。その理由を探してみる。

http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2014/256_j.pdf

4. 「中国本土・香港間の相互株式投資解禁を発表 ~人民元国際化への新たなステップ~」

中国本土と香港の当局が6カ月後をめどに中国本土と香港の間で相互に株式投資を解禁すると発表した。中国当局はこれまでクロスボーダーの証券投資を厳しく制限してきたが、今回の措置は一定の範囲内で規制を緩和するものであり、今後の資本取引自由化に向けた重要なステップと位置付けられ、また、人民元国際化の進展にとっても注目すべきものと言えよう。

http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2014/255_j.pdf

5. 「ヨーロッパ統合の課題と挑戦 ~その拡大と深化を巡って~」

現時点での欧州に関する問題を総ざらいしたレポート。歴史から解きほぐし、欧州人が、どこまで他のものを犠牲にしても今の統合体制を護ろうとするか、周縁しかも国の下の地方のレベルが突き付ける欧州的問題、求心力のコアとなるべきドイツが直面するジレンマなど、重層的それでいて一つの筋でつながる「欧州物語」として書かれている。

http://www.iima.or.jp/Docs/report/2014/no1_2014_j.pdf

6. 「転機を迎えるブラジル経済 ～問われる次期大統領の経済政策～」

ブラジルの成長率は2%台に低迷する一方、インフレ率は6%台に上昇しておりスタグフレーションと言っている状況になっている。これは、供給側の問題（いわゆるブラジルコスト問題）にメスを入れず、もっぱら減税や公的金融による低利融資といった需要刺激で景気延命を図ってきた帰結である。しかし、この政策はそろそろ限界に近付きつつある。インフレの他にも、経常収支赤字の拡大、財政赤字の拡大といった弊害が出てきているからだ。ブラジル経済の現状と課題を分析する。

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_21_j.pdf

7. 「東アジア債券市場整備の進捗状況」

東アジアではアジア債券市場育成イニシアティブ（ABMI）のもとさまざまな政策対応がとられ、また官民協力の場としてのアジア太平洋金融フォーラム（APFF）の設立準備が進められている。アジアの債券市場の発展は国によるばらつきが大きく、引き続き政策対応が必要だが、資金の受け手、出し手両面からこの地域の債券市場発展への期待は大きい。

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_20_j.pdf

8. 「カンボジア銀行セクターの動向」

カンボジアの銀行セクターでは、国際機関の支援の下、1990年代前半までの20年に及ぶ内戦、特にポル・ポト政権による徹底的な破壊からの再生と発展に向けた取り組みが行われている。低迷していた与信は2000年代半ばを境に急拡大に転じた。しかし、銀行セクターの発展は現在も未成熟の段階にある。本稿では、カンボジア銀行セクターの歩みと課題を探った。

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_19_j.pdf

9. 「対外純資産統計からみた通貨危機国の特徴」

80年代以降、金融や資本取引の自由化が進んだことで国際的な資本取引が増加し、為替相場に与える影響が増大した。特に近年は、コンピューターや通信手段の発達により、金融資産は瞬時に大量に移動する。本稿は、過去の通貨危機国の対外資産・負債を分析し、危機の要因を探った。

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_18_j.pdf

10. 「モンゴル銀行セクターの現状 ～高成長続くが信用バブルの懸念も残る～」

近年、その豊富な天然資源から注目が集まっているモンゴルであるが、ソ連崩壊に端を発した民主主義体制への移行後、度重なる銀行危機を経験してきた。本稿では、2011年以降、二桁成長を続けるモンゴル経済における銀行セクターの過去、現在について包括的に取り上げ、今後の課題について分析した。

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_17_j.pdf

11. 「第2期ナジブ政権発足後の1年を振り返る」

2期目入りを果たしたナジブ政権は、内需主導の堅調な経済に支えられて財政再建策に無事着手したが、財政再建の着実な実施には、経済の安定に加えて、政権の求心力回復による政治の安定も重要な条件となる。政権発足後の1年間を振り返るとともに、先行きの課題を整理する。

http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2014/254_j.pdf

■今週のキーワード

- ★事前宣誓供述書（DJAI）制度
- ★全要素生産性
- ★中国企業の株式
- ★ブラジルコスト
- ★アジア債券市場育成イニシアティブ（ABMI）
- ★対外純資産

レポートに関連する専門用語の参照はこちらから

<http://www.iima.or.jp/Docs/keyword/keyword.pdf>

■今月の IIMA

大型連休も終わり、IIMAでも今期の業務が本格稼働しています。

消費税率引き上げ後1カ月が経ちました。一部の小売店でシステムトラブルなどによる販売への支障があった模様ですが、これまでのところ大きな混乱はないようです。一方、増税前の駆け込み消費の反動減の規模や期間は内外の関心が大きく、今後慎重に見極めていく必要があります。

海外に目を転じますと、環太平洋では日米をはじめ TPP を巡る関係国間の交渉が続いており、今後日本国内の生産・消費活動にどのような影響が及ぶか注目されます。これら

私たちの暮らしと大きく関わる事柄を含め、国内・海外の様々な分野の調査研究を行って参ります。

また、4月より2つの大学で経済・金融に関する講義が始まりました。来月には米国の大学よりインターンシップの学生を受け入れる予定です。こうした、大学や学生との交流を、新たな研究の視点を獲得の機会にしたいと思います。シンクタンクの研究者が、専門外のひとや学生から新たな視点を獲得することなどあるのかと思われるかもしれませんが、専門家ほど、広く社会との接点の中で問題を考えていかなければならないと考えています。若い人との交流とは、分かりやすい説明を考えることであり、それは取りも直さず、問題の本質をつかむという自分自身の理解を深めることでもあるのです。

【バックナンバー】

<http://www.iima.or.jp/maimagazine.html>

【次号】

2014年6月10日配信予定

【メールマガジンの配信停止・配信先変更】

<https://m.entryform.jp/m/iima/>

【各種お問い合わせ】

admin@iima.or.jp

◇発行◇*****

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町1-3-2 三菱東京UFJ銀行日本橋別館12階

[HP] <http://www.iima.or.jp>

***** Copyright (C) IIMA All Rights Reserved. *****